



令和6年7月15日  
第883号

一般財団法人日本遺族会  
〒100-0001 東京都千代田区千代田  
千代田一丁目六番五号  
九段南一丁目二番三號  
電話 03-3261-3261  
00160-6-25389  
FAX 03-3261-3262  
編集 発行 1回15日  
定価 1部130円(税込)

日本遺族会は、戦没者となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

### 第21回会評議員

日本遺族会は6月11日、第21回評議員会を開催し、評議員の一部改選、令和5年度決算報告書等について審議した。また、令和7年度政府予算に対する本会の要望事項のとりまとめが報告され、特別慰金の継続・増額等、本会の最重要事項が8月の概算要求に必ず反映されるよう集中的に陳情運動を展開することを確認した。

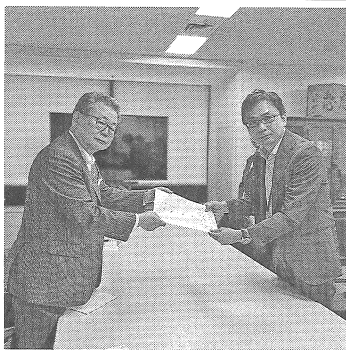
## 令和5年度決算を承認 令和7年度要望事項纏まる

第21回評議員会は、第1ブロック評議員の富澤善石衛門氏（山形県遺族会会長）が議長に選出され、議事に入った。初めに、評議員の一部改選が諮られ、新評議員に池内宜嗣氏（長野県）、松浦友一氏（滋賀県）、林康雄氏（和歌山県）がそれぞれ選任された。そして、令和5年度計算書類等の

審議では、監事を代表し、大石綾子氏が監査結果を報告し、承認された。また、去る5月24日に開催された第31回理事会で審議し、了承された事項で、「戦後80年にむけた組織継承3カ年計画」の今後の進め方、英霊顕彰運動及び処遇改善運動の経過並びに今後の運動方法、令和7年度政府予算に対する要望事項、日柱2面掲載からなり、令和7年4月15日に最終償還を迎える「戦没者等の遺族に対する特別慰金」の継続・増額、選出の自由民主党国会議員に陳情する。



令和7年度予算に向けて、かつてない陳情運動の展開を訴える水落敏栄本会会長  
=6月11日、九段会館テラスで



厚生労働省鳥井陽一審議官に要望書を手交する水落会長 = 6月13日、厚生労働省で

## 令和7年度要望事項を陳情 厚労省、財務省に面会

本会の水落敏栄会長、担当 盛川英治事務局長他、担当 生労働省大臣官房（援護担当） 島井陽一審議官等当職員は、6月13日に厚

生労働省大臣官房（援護担当）鳥井陽一審議官等に、令和7年度政府予算に対する本会の要望事項について陳情した。水落会長は、令和7年度政府予算に対する本会の要望実現のために「かつてない陳情活動」を展開する決意を示したうえで、来年度予算への要望事項10項目の内、最重要3項目として、「国は戦没者を忘れない」とする戦没者等の遺族に対する特別慰金の継続・増額、遺族の記憶を次世代へ伝承し、恒久平和を求め、気持を育む平和の語り部事業の拡充強化、高齢

## 「平和の語り部」事業 事業化推進委員会で指針を審議

5月11日開催の第1回平和の語り部本部推進委員会（以下推進委員会）の最重要議題は、語り部の意義と、今後目指す方向性を確認し、指針を審議する事であった。内容を要約に続きお伝えする。

現在進行形の各地域での取組を継続させつつ、更なる活動の普及、拡大を目指し、より地域の実情を踏まえた育成に努める。まずは、語り部事業の主な3つの活動の中から取り入れやすい型を選び取り、内容について相談は、本部推進委員およびブロックアドバイザーに助言を求めることが出来る。

- (1) 講習型  
① 自身の歩み（戦中戦後の生活、戦地からの手紙の解説等）  
② 修学旅行事前授業（沖縄想定）  
③ 遺言収集・慰霊巡洋（国の補助事業紹介）  
④ 対話型  
⑤ 自分史を作る座談会  
⑥ オールヒストリーの体験を語る座談会  
(3) 体験型  
① 慰霊碑の清掃  
② 県遺族会所有の施設を利用した体験講話  
③ 地域の戦跡を利用した体験講話  
④ 制作を通じた記憶の伝承（折鶴・夏休みの課題）  
⑤ 本部担当者からは、一歩踏み出しやすい取り組みが出来る。

みとして、自治体の追悼式の活用が提案された。例えば、追悼式における遺族代表の追悼の辞を通常より長い時間をもらい、「語り部講話（講話）」とする。語り部事業の広報とする。また、追悼式出席の学生等に参加を促し、式後の時間を活用し、座談会（対話型）や車座になって戦中・戦後の話をしながら学生と鶴を折る。その折鶴を献花のように献花台に供える（体験型）ことが提案された。

さらに、高知県遺族会青年部の取り組みを慰霊碑清掃、防空壕や学童疎開を受け入れた学校への見学など（体験型）が例として挙げられた。4. 実績・積上げ報告 令和7年度概算要求に、本会の推進に取組むことが確認され、閉会した。

支部において「平和の語り部事業」として推進しているが、6月4日、本会の完全実現に向け連携を図る。 充実について説明した。 本部は支部と協力し、大規模陳情を展開し、要望の実現（戦没者遺族に対する慰霊友好親善事業の）を期す。

## 補助金交付が決定 「平和の語り部」事業

本会は二度と私たちのような遺族を出さない、恒久平和な社会の構築を目指す遺族会活動を次世代へ継承するため、組織継承3カ年計画を決議し、令和6年度から実行、継承計画の柱の一つとして、戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝承する「平和の語り部活動」の拡大、事業化を目指してきた。 国は国民の大多数が戦後生まれとなる状況に鑑み、戦争の記憶の風化を防ぎ、次世代へ語り継ぐことを目的とした新規補助事業を公募し、令和6年3月本会が応募、同月採択され、今年度より全

## 謹 哀悼

成田公義氏 日本遺族会元評議員、北海道連合遺族会元副理事長。  
令和6年1月20日、逝去された。86歳。告別式、葬儀は近親者のみで行われた。喪主は妻美智子氏。 湯地敏郎氏 日本遺族会元理事。宮崎県遺族連合会会長。  
令和6年6月4日、逝

## 支部長交代

宮崎県役員改選が行われ、新会長が就任した。 黒木 優氏 (6月23日付)

6月23日は沖縄戦における組織的戦闘が終わった日とされ、その日が沖縄県における「慰霊の日」と定められ、県内は慰霊の日となる。その一つに、本会と沖縄県遺族連合会が主催する「平和折願慰霊大行進」がある。今年も本会から41人が参加し、沖縄県の方々を含め約3000人が糸満市のめゆりの塔前から摩文仁の平和祈念公園までの4キロを当時、梅雨末期の中、戦火を避けるため、南へと逃れた方々の思いを胸に平和を願って行進した。この慰霊行進も今年で63回を数える。この行事に本土から初めて参加したが、昭和38年の第2回目からになる。翌年の昭和39年6月22日には琉球政府が定めた「慰霊の日」（琉球政府は昭和36年、6月22日を慰霊の日と定めたが、その4年後の昭和40年、現在の6月23日を慰霊の日と改める）に、当時の青年部一行199人が沖縄の遺族ら2000人と一緒に那覇市内から摩文仁台の上までの24キロの道のりを汗まみれになりながら行進。摩文仁台上に到着した一行は、琉球政府主催の第一回「沖縄戦没者追悼式」に参列し、沖縄で亡くなった英霊の冥福を祈った。と、本紙縮刷版に記載がある。来年は戦後80年の節目の年になる。一人で多くの方々を歩み、平和への強い決意を示して欲しい。(M)

# 79年「慰霊の日」 沖繩平和祈願慰霊大行進 孫、ひ孫世代13人が参加

沖繩は6月23日、20万余の尊い命が失われた地上戦が終結して今年で79年目の「慰霊の日」を迎えた。県内各地で戦没者の冥福を祈る慰霊事業が執り行われる中、昨年に続き今年も第63回沖繩平和祈願慰霊大行進を開催。参加者は戦没者の御霊を慰め、命の大切さと平和への祈りを込め、ひめゆりの塔から摩文仁へと行進した。



炎天下の中、遺児、孫、ひ孫世代が一緒になり平和祈念公園まで歩いた行進団＝6月23日、糸満市摩文仁で

79年前の沖繩戦では、住民を巻き込んだ激しい地上戦で、県民を含む20万人以上が犠牲となった。沖繩県では、旧日本軍の組織的な戦闘が終わったとされる6月23日を「慰霊の日」と定めている。日本遺族会はこの「慰霊の日」に沖繩県遺族連合会と共催で、昭和37年から平和祈願慰霊大行進を開催している(コロナ禍で中止となった3年間を除く)。今年は、全国から戦没者の孫、ひ孫世代13人を含む41人が参加

## 追悼のことば

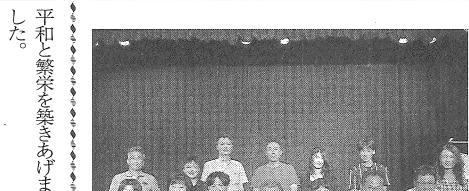


沖繩県遺族連合会  
会長 我部政寿

本日、ここに沖繩県主催による「令和6年沖繩全戦没者追悼式」が執り行われるにあたり、戦没者遺族を代表して謹んで哀悼の誠を捧げ、諸霊のご冥福を心からお祈り申し上げます。今年、あの凄惨な沖

繩から七十九年忌ましい地獄のような戦争体験者が語る戦争は実に惨い、残酷です。罪のない子供や女性、お年寄りや無差別に戦場に巻き込まれ命を奪われた光景が昨日のように脳裏に浮かび胸が張り裂ける思いが致します。それでも戦没者追悼は、あの激しかった沖繩戦及び外地において、祖国の安泰を願ひ、家族を案じてつづきに尊い生命を祖国のために捧げられたのであります。今、霊前に立ち、在りし日を偲び、諸霊に対する追慕の情は、更に深く

た。そして、沖繩県立宮古高等学校三年の仲間友佑さんが「平和の詩」を朗読し、会場内は世界平和を願う祈りに包まれた。追悼式終了後、午後2時、国立戦没者墓苑で本会主催の拝礼式を挙行し、祭壇に献花した後、参加者は各自、摩文仁の丘、米須地域に建立されている各都府県の慰霊塔を参拝した。



水落会長を囲む孫、ひ孫世代の沖繩慰霊大行進参加者＝6月23日、パシフィックホテル沖繩で

の約4kmの大行進は思ったよりきつくと一緒に歩いての方と話をしながら何となく目的地の平和祈念公園に着くことができた。昭和37年に初実施された当日の3日前に梅雨明けした晴れ間の30℃近い炎天下の中、ひめゆりの塔から

の参加と聞きました。日本遺族会からの参加者も無事到着。特に、父昭和15年生まれと同年代の方。また今回の参加者で最高齢の89歳の方も参加され感動いたしました。自分はその年になって歩けるものなのか?

厚労・総務省で  
人事異動  
厚生労働省、総務省で人事異動が行われた。本会に関係のある方々は次のとおり。

日本遺族会への賛助金のお礼  
本会の活動に賛同し、賛助金を寄せていただいた左記の方々に対し、心よりお礼申し上げます。

## 令和7年度政府予算に対する要望事項の大綱

1. 戦没者等の遺族に対する特別弔慰金の継続・増額  
「国は戦没者を忘れない」とする法律をなくさない
2. 公務扶助料等の改善  
国家補償の理念に基づく改定を
3. 「平和の語り部事業」の拡充強化  
次世代へ伝えたい!!戦没者遺族の記憶 戦争の悲惨さを伝承し、平和の尊さを考える機会の提供を
4. 戦没者遺児による慰霊友好親善事業の充実(洋上慰霊)  
悲願 海に鎮まる30万余の御霊に慰霊を 洋上慰霊の実現へ!!
5. 国内における民間建立慰霊碑の維持管理等への支援
6. 海外慰霊碑の維持管理及び移設事業の推進  
国内外の民間建立慰霊碑を戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝えるシンボルとして適切な保存、維持管理を
7. 戦没者の遺骨収集事業の拡充強化  
一日でも早く、一柱でも多く祖国へ
8. 全国戦没者追悼式への国費参列者の増員等  
政府主催の追悼式に多くの戦没者遺族の参列を
9. 海外等に散逸する戦没者遺品の返還等の推進  
高齢となる遺族のもとへ戦没者を偲ぶ遺品を一日も早く返還へ
10. 昭和館事業の推進  
戦没者遺族をはじめとする国民の戦中・戦後の戦争の記憶を次世代へ伝える施設の補修、事業の拡充を

香川県遺族連合会  
青年部長 名和京太郎  
今回初めて沖繩平和祈願慰霊大行進に参加させていだきました。

の約4kmの大行進は思ったよりきつくと一緒に歩いての方と話をしながら何となく目的地の平和祈念公園に着くことができた。

昭和37年に初実施された当日の3日前に梅雨明けした晴れ間の30℃近い炎天下の中、ひめゆりの塔から

の参加と聞きました。日本遺族会からの参加者も無事到着。特に、父昭和15年生まれと同年代の方。また今回の参加者で最高齢の89歳の方も参加され感動いたしました。

厚労・総務省で  
人事異動  
厚生労働省、総務省で人事異動が行われた。本会に関係のある方々は次のとおり。

日本遺族会への賛助金のお礼  
本会の活動に賛同し、賛助金を寄せていただいた左記の方々に対し、心よりお礼申し上げます。

令和6年度・戦没者遺児による慰霊友好親善事業・実施計画概要

Table with columns: 実施地域, 実施時期, 募集人員, 申込締切. Lists 15 international destinations including Kazakhstan, Philippines, East New Guinea, etc.

慰霊友好親善事業

亡き父の足跡を辿る旅

事業終了迫る 参加者募集

日本遺族会が厚生労働省から補助を受け実施する「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」では、令和6年度の参加者を募集している。

日本遺族会が厚生労働省から補助を受け実施する「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」では、令和6年度の参加者を募集している。

令和7年度洋上慰霊 実施に向けて参加者募集

日本遺族会が厚生労働省から補助を受け実施する「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」では、令和7年度の参加者を募集している。

遺骨収集事業相次いで実施 トラック諸島沈船で遺骨収容

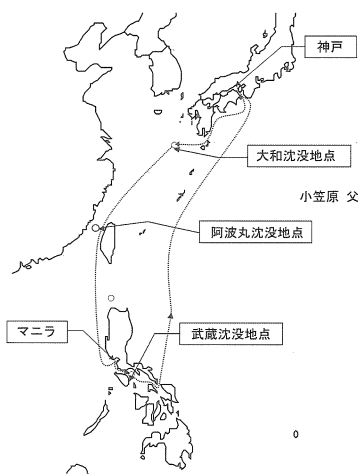
日本戦没者遺骨収集推進協会(推進協会)は、5月から6月にかけて海外4地域、国内硫黄島別掲に相次いで現地調査・遺骨収集を派遣し、本会からもそれぞれの地域へ参加協力した。

海外の現地調査では、主に現地住民からの情報、海外公文書館の埋蔵地資料情報等に基づいて発見した遺骨を収容し、DNA鑑定用の検体を採取して、遺骨収集派遣によって直ちに送還できるように準備している。

令和6年度 日本戦没者遺骨収集推進協会主催 現地調査・遺骨収集実施表

Table with columns: 派遣名, 実施地域, 実施期間, 本会参加人数. Lists field investigations and bone collection activities in Indonesia, Myanmar, Philippines, and Mongolia.

令和7年度【洋上慰霊 航路予定図】



※予定のコースは天候等の理由により変更する場合があります。ご了承ください。

各都道府県遺族会事務局へ。なお、申込多数の場合、参加者の高齢化に考慮し、看護師が同行する。実施地域・実施計画概要参照。

渡航手続き手数料等の費用は、個人負担となる。※付添者補助については、実際には掛かる旅行費用の3分の1が対象となる。

柱を収容し、それぞれ検体を採取し送還した。送還した検体は厚生労働省へ引き渡され、今後、人種の特定と戦没者の身元を特定するDNA鑑定が行われる。

④申込締切日は、マニラ諸島地域は変わらざり11月1日、インド地域は8月9日に変更となっているので、注意願いたい。

「平和の語り部」組織継承

語り部育成研修会実施

埼玉県、岩手県で

日本遺族会が組織継承の具体策として取り組んでいる「戦後80年に向けた組織継承3カ年計画」の柱の一つである「平和の語り部」事業の研修会が埼玉県、岩手県の各支部で実施された。研修会では、具体的な語り部活動の方法が各地の実例を交え提案され、出席者は今後の進め方、課題等について積極的に意見を交わした。

埼玉県

6月15日、埼玉県遺族連合会青年部は、靖国神社参拝にあわせ九段会館テラス日本遺族会会議室で語り部の会を開催した。

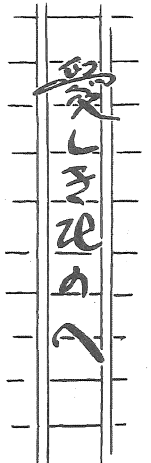
八王子市の小学校で長

八王子市の小学校で長年に行われていた語り部講話活動に尽力している東京都遺族連合会富田豊代志副会長を講師に招き、小学校で行われている講話が披露された。

弟安男君へ

海軍一等飛行兵曹 上村 治男

昭和二十年一月二十八日 和歌山県那賀郡西貴志村出身 二十一歳 黄海にて戦死



安男、元気かね。兄さんも相変わらず安男達の様に、否もつと強く青空の如く大きな希望に満ち溢ちて楽しく日々の課業に励んでるよ。休暇の時はずっと面白く話でも思ってたが、色々事で忙しくゆつくりと話す事も出来ず過ぎた事を残念に思ってた。さうすれば農学校の試験も直ぐやってくるぞ。準備は如何に？ 一つ大いに頑張つて見事突破する様に。兄さんもそのみ楽しみにしてあるからね。頑張つて頑張つて頑張つて通すのだ。そのかはり安男や秀ちゃんの分まで御国の為、一生懸命御奉公するからね。

此れからは安男始め兄弟三人は戦走だ。いつまでも末っ子として御両親に迷惑をかける様な事のない様に。偉くならなくとも真面目な強い日本の男子となりさへすれば、どんな所にも役立つ人間になれるからね。 (中略) 安男も早や国民学校も卒業だ。此れ等若輩の如く生々と明るく大きな希望を持って、爾後奮闘する様折つてやみません。最後に安男の卒業をお祝いする。ではお元気で。お父さん、お母さん、おばさん、秀ちゃん等によろしく。君の為 我が里いでて 武蔵野の むらさき匂ふ 花と散ららん

【令和六年七月靖国神社頭掲示】

愛しきものへ

2日の八王子空襲により家ごと燃えてしまったこと。

その大火の中を、幼児の自身は祖母に背負われ、一緒に逃げた母が弟を負ふりながら命からがら守つた父の手紙が読み上げられ涙を誘った。

長年の活動の中で、子供たちが飽きずに聴講する工夫として、戦争の被害を想像しやすいように冒頭、八王子空襲のビデオを視聴し、その後、遺児が10分ずつ体験を紹介



埼玉県遺族連合会青年部に語り部講話を披露する富田副会長(東京都) = 6月15日、九段会館テラス

青年部長として出席した中野英幸衆議院議員は、「記憶を持つ遺族と戦後生まれの青年部が共に活動しよう。国会議員としても、事業の拡充を目指し、努力する」と挨拶した。なお、同研修会には、福居・小林副副会長も出席した。(福居氏は、本部ブロックアドバイザーに就任、小学生から遺児までの幅広い世代が、語り部事業の意義を

介、最後に質疑の時間を作るなど、ポイントが示された。本部からは、語り部事業の説明がなされ、多くの自治体で実施できるよう、文科大臣へ要望したことが紹介され、代表として出席した同県江田馨会長(本会常務理事)は「文科大臣は、同事業の重要性を認め、教育委員会での周知を約束した」と披露した。

九段短歌

選者 村田 信昌

肉声を知らざるわれに聴えくる父の便りの戦地からのこゑ  
青森県 田中 恭子  
夏雲と秋雲ゆきあふ八月の不戦の誓ひをみ霊も見守らむ  
千葉県 石橋 嘉子  
お父さん一緒に帰りましたよ団員の悲痛な叫びボルネオの海  
埼玉県 金井 文男  
櫛かけ汽車の窓より手を振りし出征の父がすかすかに覚ゆ

沖繩の「近江の塔」で慰霊祭亡父に呼びかけ感極まり  
滋賀県 雨森 貴子  
参拝もこれで最後か九十五歳孫に引かれて九段坂行く  
佐賀県 松尾美津子

開館25周年記念

写真展、特別企画展を開催

予定している。写真展 7月6日から10月27日まで「写真家たちがみつめた戦前・戦中」を2階ひろばで開催する。昭和

本年3月、開館から25周年を迎えた昭和館では、通年に行ったり、各種企画・イベントを実施しており、7月から開館25周年を記念した特別企画展、写真展がそれぞれ開催される。写真展は通年2回開催するところを記念行事として、3回開催し、今回は11月の開催を

泣きたるは妻のみならず外づつ国の幼きもまた父喪ひし  
「みたまつり灯すあかりは小型でも孝行できぬ亡父へのむかえ火  
熊本県 高木 谷子  
長崎県 安原 恭子

遺族会戦後100年まで

水落会長決意を語る

「英霊顕彰」とは何かを問、続けた末の結論は、戦没者を忘れないこと、すなわち戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝承する「平和の語り部」と示した。今年度国の新規事業に

取入れられるのは難しいので、国の方針として授業の中に平和の語り部のカリキュラムを作る協力体制が必要であるとの意見があった。また、大船渡市の遺族からは、地元立根小学校には実際に「平和について考える」という授業があり、昨年の学校創立150周年記念行事で、自身が体験し

戦後の生活の苦労について話したことが劇化された取組みが紹介された。那須正明事務局長からは、まずは慰霊祭、追悼式に参列した小学生等に対しての講話活動から始め、徐々に学校教育に組み込まれるよう慎重に準備するとした真事業化推進委員会の方向性が報告された。

7月20日から9月8日にかけて「慰問 銃後からのおくりもの」を3階研修室で開催する。この展覧会では、戦中に行われた慰問をテーマに、家族や地域の人々から戦地に送られた手紙、日用品や菓子などの慰問品、劇団や音楽家などによって結成された慰問団の活動を紹介します。両展示とも入場無料。問合せ先：昭和館図書情報部・学芸部03-13222-2577



今年度国の新規事業に